

熱中! 夢中! ふくしびと

だから続けたい この仕事

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で「熱い福祉」を「夢中」で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいを「生」の声でお届けします。

天羽 悠さん あもう ゆう

施設名 小規模特別養護老人ホーム 向陽苑21
〒617-0006

向日市上植野町五の坪1番地の2

HP/URL : <http://kouyou26.com/>

TEL.075-921-0026 FAX.075-932-8989

職種:介護士 経験年数:5年

★今、夢中になっていること:韓国ドラマ



一人ひとりに寄り添って

★仕事を始めたきっかけは?
小さい頃からお婆ちゃんお爺ちゃん子で、お年寄りの方とお話する事が好きでした。
福祉の学校に通い勉強や実習を受けて、もっとお年寄りの方と関わり、誰か一人にでも必要とされる介護士になりたいと思い、介護の仕事を選びました。
★仕事の内容とやりがいは?
入浴、食事など普段の生活のお手伝いをさせてもらい、より良い生活を過ごしてもらえるよう一人ひとりに合ったプランに添ってケアをしています。
介護に対してあまり良いイメージをもっていない方も多いと思いますが、確かに体力的にも精神的にもしんどい所はあると思います。しかし、実際に働いてみると明るい職場で笑顔いっぱいです。自分が何かをする事で入居者が元気になる「あんなにがええわ」「よう頑張ってるな」と言われた時はすごくうれしい気持ちになります。些細な事ですが、家族様・入居者様から感謝をされると「この仕事をやっていて良かった」とやりがいを感じます。
看護と違って医療面で何かをしてあげる事はできませんが、介護士にしかできない事がたくさんあると思います。一人ひとりに



★今後の目標(抱負)は?
まだまだ介護について知らないことがたくさんありますが、自分はどうしたい、こんな介護士になりたいという目標をしっかり持ち、入居者様を第一に考え、何事にも落ち着いて笑顔を忘れずに、楽しく誰かに必要とされる介護士になれるよう頑張っていきたいと思います。

★プライベートの過ごし方は?
海外・国内旅行、好きな歌手のライブに行くことと友達とカメラを持って出かけることです。

★今後の目標(抱負)は?
まだまだ介護について知らないことがたくさんありますが、自分はどうしたい、こんな介護士になりたいという目標をしっかり持ち、入居者様を第一に考え、何事にも落ち着いて笑顔を忘れずに、楽しく誰かに必要とされる介護士になれるよう頑張っていきたいと思います。

寄り添って少しでも残りの人生を楽しく笑顔で過ごしてもらえようにお手伝いをさせてもらおう事で、日々沢山の「ありがとう」と言ってもらえる介護の仕事は、自信をもってやりがいがある素敵な仕事だと思っています。

京都府災害派遣 福祉チームが



被災地に向けて第1クールが出発

倉敷市で支援活動を展開

豪雨災害により甚大な被害を受けた岡山県倉敷市では避難所に指定されている小学校に多くの方が身を寄せ合っており、被災された方の生活支援と避難生活のストレスなどからくる二次被害を防止するため、医療・保健・福祉が連携して被災者支援にあたる事が確認され、DMATなど医療チームとともに、福祉チームが活動することになりました。
被害が甚大で被災されている方が多くいることから、岡山県からの要請を受けて京都DWA Tも7月20日(金)〜8月13日(月)までの25日間、1クール4人(4泊5日)を6クールに分けて合計24人が支援活動を行いました。
京都DWA Tは倉敷市真備町の

平成30年7月豪雨災害では京都府北部地域をはじめ、全国各地に甚大な被害をもたらしました。平成26年度より活動を開始した京都府災害派遣福祉チーム(以下、京都DWA T)は、2年前の熊本地震に引き続き、岡山県倉敷市真備町で配慮が必要な人を支援するため活動を行いました。

の岡田小学校に派遣され岡山DWA Tとともに活動しました。岡田小学校では約350人の方が避難しており、これまで介護サービスを利用していたが災害により利用できなくなった方や認知症の疑いのある方などもおられました。
避難所では「なんでも相談所」を開設し、日々の困りごとや不安などを気軽に聞ける場をつくらしたり、教室に避難されている方を巡回して声かけを行いました。活動の中で、福祉的な支援が必要な方を福祉避難所から短期入所施設へとつないだり、地域包括支援センターにつなぐ事例などがありました。
真備町の多くの地域が被災し、沢山の方々が家や家財を失うなど先行きの見通しを持つこ



避難所でのヒアリング活動の様子

とが難しい状況におかれている中、被災者の不安な気持ちを想像し受け止めることがチーム員には何よりも求められました。そして、福祉的支援を行うことで少しでも支えになりたいという思いを活動の中で共有化していました。
災害時における福祉的配慮が必要な方々を支援するため、京都DWA Tでは今後とも研修を通じて活動を深めていくとともに、活動基盤の整備を進めていくことが重要になっています。

